

NUA PRESS

2011年9月10日発行(年1回発行)第18号 発行・編集／名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部同窓会事務局
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼6-5 Printed in Japan

2011 no.18

「これまでの時代」から「これからの時代」へ

梶浦 厚さん

工芸工業デザイン科 1期卒

インハウスデザイナーとして38年。株式会社スペース常務取締役を経て、現在、同社梶浦厚研究所、所長を務める梶浦さん。今回は我が校へ特別講師としていらっしゃった際に、これまでのご苦労や、研究所所長としての新たな展望、若い世代への思いを語っていただきました。



名芸大工作室格闘時代 1970～

「自分の温度」を築いた時

——名古屋芸大第一期生という大先輩を前に大変緊張しています。以前、この誌面でも開学当時の特集をしましたが、学内の雰囲気はどのような感じだったのでしょうか。

私の名芸1年生時代は、世界的な「1968年問題」から端を発したデザインを志す若者達が【個人の固有性の回復】を目指した時代で、【20世紀の目指した価値観＝機械的なテクノロジーによる強さを求める歴史】に反発し、息苦しさや頂点に達していた時代でした。まさに転換の時期でもあり、デザイン出発の時代が背景にあったと思います。そんな時代に創設された名芸大のカリキュラムはとうてい満足のいくものでは有りませんでした。少ないチャンスに担当教官から何かを聞こう、学ぼう、新しいこと、知らなかったことを発見することに夢中だった時期でもありました。まさに「Hungry & Foolish※」な時代でしたね。

(※Steve Jobs' 2005 Commencement Add. Stanford UNIV. より)

早いもので、卒業後デザインビジネス業界で38年、いろいろな事を経験し、学び、失敗したことも沢山ありました。デザインという楽しくも有り大変厳しい仕事を通じて、素晴らしいお客様、先輩、仲間と出会えたことが自身を高め、学び、チャレンジするという「自分の温度」を維持する原動力に成りました。

今思えば、常勤の教員も少く、十分とは言えない教育環境の中、唯一「名芸大工作室格闘時代」が毎日工作室に通って黙々と「自分の温度」に従い作品作りに没頭できた時間でした。その「温度」が今の自分を築いたと思います。当時の「技術員、鈴木さん」の存在には大変感謝致します。

そんな工作室通いから生まれたFRP製のツール：TRNITY(写真右)が講師の高橋先生(最初に入社した日展デザイン部長)に商業施

設のパブリックスペースのツールとして20台ほど採用されました。現場設置も終わり開店日当日、お客様がドーっと入店、私の作ったTRNITYに座った時ジーンと涙が出てきましたね。まさに私を「商空間の道」へ方向づけた瞬間でした。

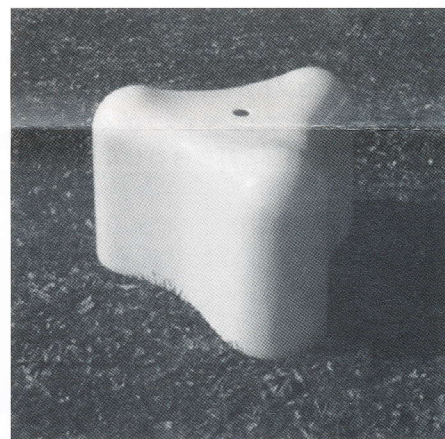
駆け出し時代：初めての仕事 1975～

(株)スペースとの出会い

当時の新入社員のデザイン作業学習法は、夜な夜な先輩達の仕事をゴキブリのように社内を夜中に徘徊し、資料を収納棚から引っ張り出しては図面、パース、マテリアルボードの真似をすることから始まります。(当時はプロジェクト毎にマップケースに収納するルールが有り、今はPCにて作業するためサーバー管理する)私の日常はデザイン部長のトレース作業の連続でしたが、ある日やっとチャンスが巡って来て任される案件が発生しました。

それは当時カトウ美装株式会社(※今の(株)スペース)が全体監理をしているショッピングセンター内にテナント出店するBakery専門店(写真右ページ)で、デザイン・監理の仕事でした。

大学にて。講義前に。



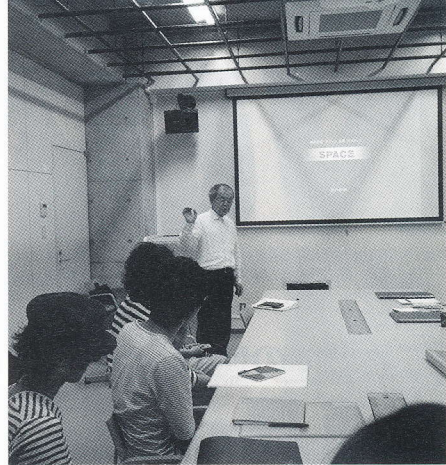
写真中／FRP製のツール：TRNITY。
下／初めて担当することになった、
ショッピングセンターのテナント

次ページに続く



写真上／「NEW-GMS APITA運動」によってデザインされた総合スーパーの様子。

右2枚／2011年7月に行われた講義の様子。梶浦さんの経験談や学生自身のポートフォリオに対してのアドバイス、熱心に聞く学生。



天にも舞い上がる「自分の温度」を感じながら、尊敬しているデザイナーの設計手法を真似つつも、ありったけの新しいチャレンジを試みました。床・壁装材、照明器具、家具、仕上げ材、POPパネル、BGM等々、入手ルートも開拓。トコトン探し回り実現してゆく姿勢は、結果お客様から評価をいただき仕事のリピートに繋がりました。真に、自分も成長できる学生時代、名芸大工作室格闘時代の再来でした。

数年後、私はその時の仕事を事例集に入れ、(株)スペースの中途採用に応募し、転職致しました。

「NEW-GMS APITA運動」1984～

内田繁氏との出会い

クライアントのチェーンストア企業より「新業態開発プロジェクト」の話があり、プロジェクトデザインリーダーに内田繁氏が指名され、カトウ美装(株)＜現(株)スペース＞はデザイン実施に向けてのサポート企業として参加する仕事が「NEW-GMS APITA運動」(写真上)でした。APITA運動とはデザインの力で企業をブランディングする事です。「毎日利用する総合スーパーが時代を担う若い人に支持される基幹業態に成長すること」がミッションでした。当時のカトウ美装の社員の思考までも変える勢いのある運動に拡大・発展しました。APITAデザインコンセプトが内田氏より発表に成ると、売り場毎にデザインチェックがスタートし、各担当者は商品部と打ち合わせた内容でデザイン提案をします。OK/NGのジャッジが毎回あり、最も厳しく、そして楽しい、真のプロジェクマネジメントはこうあるべきを学びました。

私は関東エリアAPITAのディレクターとして内田氏に師事し、関東APITA物件プラスAPITA中部エリアの基幹売場担当を数年間にわたり担当することになりました。プロジェクトを推進すること、トップと話をすること、企業が変わる為にデザインには何が出来るか等々、実際にデザイナーとディレクターの役割をマンツーマンで学びました。人生の中で名芸大工作室格闘時代に次ぐ、自分が大きく成長したターニングポイントでした。デザインリーダーの基礎体力として養われたスキルはその後の新規顧客開発ツールとして生かされ、新たな実績として(株)スペースに貢献することが出来ました。

梶浦厚研究所

(株)スペース・梶浦厚研究所、所長に就任

インハウスデザイナーとして38年、様々な出来事を経験しました。80年代は、スペースにとって最も成長発展した時代と成りました。商業施設の大型施設全盛期の時代を迎え、企業グループは規模を更に拡大し、デザイナーも建築家を凌駕するような活躍をした時代でもありました。後に90年代バブル崩壊の「空白の10年」と言われる時代を迎えますが、スペースは景気に左右されることなく、着実に成長いたしました。会社法が叫ばれる中、企業はデザインビジネスの以前に基盤整備が求められ、ますますガラス張りの体制となり、入社当時の大らかさから一変しています。私はスペースという会社が好きです。32年間勤め、常務退任後も更に何か貢献したいと思わせるスペースという会社…そんなフィールドが梶浦厚研究所です。

Next/NUA に向けて

NUA/Tokyo Design Lab構想

名芸同窓生も35期を超え様々なジャンルの中心的存在で活躍しています。そんなOB達の力と、そこから広がるもっと大きな交流の輪を活用したデザイン教育機関が有ったなら…。次代を牽引する素晴らしい名芸像が感じられませんか？地方と中央の仲間が繋がり、響きあい、交流し合えばそれはまさにNext/NUAのAmazing Plan!のスタートです。同窓生の皆さん、名芸の高次なデザイン交流拠点“NUA/Tokyo Design Lab”に賛同頂けませんか？そこは更なる自分を高める情報と交流のチャンス溢れる拠点であり、高い意識を持った名芸生、他大学、社会人デザイン教育の場として名芸OGOBや連携するプロフェッショナルな支援による多彩な共感と発見の場です。既に少子高齢化社会に突入した現在、大学全入時代、差別化、生き残り策が問われています。35期以上に涉って培った記憶を生かし、更に発展しようでは有りませんか？地方大学も中央にサテライトオフィスを設置し、世に研究成果や、企画展等を通じてアピールしています。又世界には同じような思想を持った教育機関も存在しています。全国同窓生の輪で特色のある名芸像を構築しましょう。同窓会を通じても良し、学内の声から発しても良し。「自分を変えたい、何かチャレンジしたい！」そんな行動に気がついた人の為の環境が次代のエネルギー発信拠点Next/NUAのAmazing Plan!です。是非次代の名芸像をクリエイトしませんか？

☆記事下にあるコーナーも合わせてご覧ください。

NUA/Tokyo Design Lab構想

「真に時代が求める」人材教育の場が必要な現在
→高次なデザイン教育交流の場創造を目指したい！

「名芸同窓生皆さんの共感と賛同が無ければ実現は不可能です。次代に向けたNUA/Tokyo Design Lab構想は同窓生の皆さんとともに進めていく運動です！賛同や御意見をぜひお寄せください。」 — 梶浦 厚

梶浦さんより、すてきなご提案をいただきました。実現に向け同窓会も現在準備中です。ご賛同・ご意見なんでも構いませんので、同窓会HP情報登録フォームより皆さんのお声をお送りください。

同窓会ホームページ <http://nua-w.com/>

NEXT/NUAにむけて

「真に時代が求める」人材像とは？

そんな人材を教育できる環境があっても良いのでは？

普遍的な教育×最先端な情報(知識と知恵)が大切

高次なデザイン交流の場

NEXT/TOKYO DESIGN LAB 名古屋芸術大学・東京デザイン研究所

名芸大のデザイン教育理念のもと高次な交流の場を創造し、社会が求める新たな人材像を追求する。クリエイティブセンスとビジネスセンスを併せ持った価値を創造でき、ハイブリッドな知識と実践力を備えた指導者によるデザインプロフェッショナルを養成する機関を目指す。

情報・ビジネスチャンスが集中する東京に、時代が求める分野・業種の専門家とジョイントし、教育・研究の場とする。専攻科を設け、名芸4年間を終了したのち、高い成長目的意識を持った学生や、すでに社会人で自身のレベル・スキルアップを目指す人たちの交流を作り、共感や発見の場とする。

アートを社会化。それが使命。

大保 和巳さん

美術文化学科25期卒

国内では、数少ない専用の劇場を持つ文化事業団であるSPAC(スパック)
—静岡県舞台芸術センター。

その芸術局制作部に現在所属する大保和巳(おおほかずみ)さん。
美術文化学科の中では1期生にあたります。

——大保さんは卒業後、京都橘大学大学院で文化政策学を学ばれたわけですね。

もともと美術館の運営に携わりたいと思い、学芸員を志望していました。そのため、はじめは美術史を学べる大学院への進学を目指しましたが、そもそも自分は研究職よりも経営、マネジメントの分野に関心があったので、大学院への進学を機にアートマネジメントを勉強し直そうと思いました。美術文化コースの先生方は美術館含めてアートの現場の経験が豊富な先生ばかりで、在学中から色々と現場における課題を聞いていたことが、当時の自分の興味を加速させていきました。

——今のお仕事についてお聞かせください。舞台芸術に特化したスペースと伺っています。

大まかに言えば、劇場の運営全般に携わっています。SPACは芸術総監督をトップとしたプロのアーティスト集団(劇団)という側面を持ち、私たちの劇場はSPACオリジナルの作品を創り、上演するための専用劇場となっています。

自分が学んだ美術文化は他の学科やコースと異なり、理論的な研究、あるいはプロジェクトの企画／実践をメインに学ぶコース=アートマネージャーを育てるコースとも言えるので、そういう意味では今まさにアートマネジメントの実際の現場に立っているとと言えます。

「アートの間口を広くしたい」、「もっと地域との関わりを深めながら芸術を普及させたい」、「関心のない人にも関わる機会をもっと創出したい」という思いが、私たちの仕事に対する考えの根底に共通してあります。劇場では管理ではなく企画制作の部署に所属しているので、広報はじめ、企画ミーティングがしばしば行われますが、アーティストが芸術を深化させて作品をつくる一方で、アートを社会化することが我々の仕事だという思いで企画が進んでいきます。

また、恩師である先生方には、今でも仕事のことと相談に乗っていただく時もあり、本当に心強いです。

——現在進行形の企画などありますか？

大きなところでは、フランスのアーティストとともに静岡の中高生と世界に通用するコンテンポラリー・ダンスをつくり、海外公演を目指すプロジェクトの担当をし、それ以外に広報、ボランティア

アの運営なども担当しています。

——ありとあらゆる…といった感じですね。

美術館であっても劇場であっても人手不足ということはありますが、やはり多数の仕事を掛け持ち、膨大な仕事量ではあるものの、様々な職種の経験ができるという意味ではとても有意義だと思っています。

また、今担当している仕事はどれもアートの裾野を広める(特定のファン層だけでなく多くの人に開く)と共にその頂点(クオリティ、ブランド性)を高めるという側面で共通した仕事だと思っていますし、それがアートマネージャーの大きな役割割だと思っています。例えばうちの劇場の俳優やスタッフが、地域のお祭りに、是非参加して何かやってくれよ!なんて誘ってもらえるようになったとき、私は一つ成果を挙げられた、と思えるような気がします。

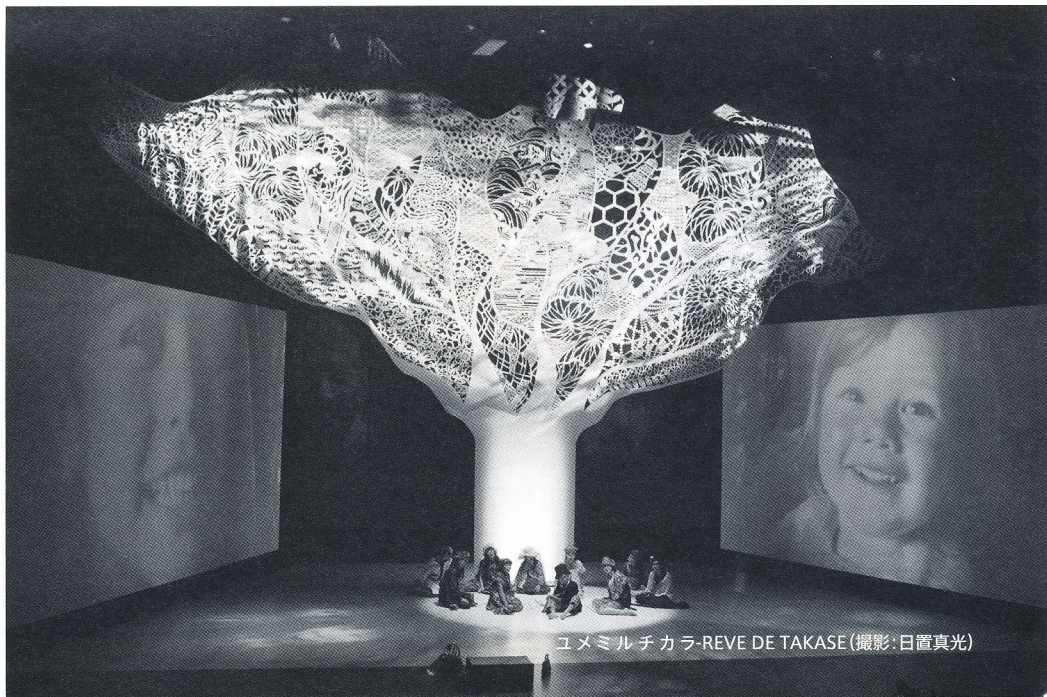
今後は、今の経験を活かすことができ、なおかつより小さな単位で地域の方々とつながりの強いアートの環境創りに関わりたいと思っています。

“アートで町おこし”。これからも追求していきたいキーワードです。

地域に根ざしながら舞台芸術を通して、アート全般の社会性を追求するその姿勢には、真摯なものを感じました。芸術をサポートする人材の重要性を再確認させてくれる、そんなお話でした。

本人近影。

SPACはJR東静岡駅近くの[静岡芸術劇場]と、日本平北嶺に位置する[静岡県舞台芸術公園]、2つの活動拠点がある。



ユメミルチカラ-REVE DE TAKASE(撮影:日置真光)

オリジナリティの追求

水野 幹子さん

絵画科日本画コース25期卒

アート展2008 in うつくしま



写真上／入選の作品

右／本人「ドールアート展inうつくしま」にて



——水野さんは創作人形の世界で全国的な発表はもとより「ドールアート展inうつくしま」で入選を重ね、「ユザワヤ創作大賞展」では銀賞に輝く等、人形師としてご活躍中ですね。いつ頃から人形創作を始められたのですか？

大学3年の頃、「生きた死体」と言われるほど妖しく美しい天野可淡の作る「カタンドール」に出会い、自分も作ってみたいと思いました。東海3県は著名な先生がいない地域で、すぐには始められなかったのですが、数年後名古屋で戸谷田よし子先生の教室に出会い、作り始めました。

——10年のキャリアですね。創作人形にはどのような種類(ジャンル)があるのですか？

大きく分けて《与勇輝》のような動かせないタイプの「ポーズ人形」と四谷シモンから始まったといわれる関節を動かせる「球体関節人形」があります。これらは1点ものです。私は両タイプ共作ります。

その他に「カスタムドール」といって量産されているパーツを組み合わせて作るタイプの人形もあります。創作人形はハンスベルメールがアンティークドールの技法で現代的な創作人形を発表したことから感銘を受けた人達が作り始めたもので、その歴史は一見長いようで実はまだ半世紀くらいでしょうか。

——新しくも懐かしい感じがする訳ですね。水

野さんは「壺師」という作家名ですよね？

壺師花[いちしばな]から取りました。多分、彼岸花のことです。この花が好きなので。

——(写真を見て)作られた作品は布でできたカエルから日本人形風、本物のカラスの羽根が付いた烏天狗、そして雰囲気のある大きな人形とかなり作風に幅がありますね。どれくらいの時間がかかるのですか？

大きいものは1年がかり。球体は自立して立たなければいけないので、微調整に時間がかかります。図面も引かなければ作れません。大学でのデッサンが役立っています。

——特に神経を使うところや鑑賞のポイントがあったら教えてください。

普通に顔とか雰囲気を。あと作り手の作品を観るときは、関節とかが気になりますね。

——最後に未来に向けて目指していることはありますか？

見て喜んでもらえるような人形をつくれたら、そしてオリジナリティーが確立できたらうれしいです。

——どうもありがとうございました。ますますのご活躍を期待しています。



HOTでGOODなコミュニケーションの架け橋

DAIEI 大英印刷工業株式会社

本社・工場 〒462-0017 名古屋市北区落合町223番地

TEL (052) 901-6003 (代) FAX (052) 901-2477

URL: <http://www.daiei-p.co.jp> E-mail: service@daiei-p.co.jp

印刷はもちろん小ロットオンデマンド印刷によるオリジナル名刺・電子書籍制作・効果的なDM企画承ります。

名刺通販展開中

D-order
ドーダー 名刺
オリジナル名刺はお任せください。

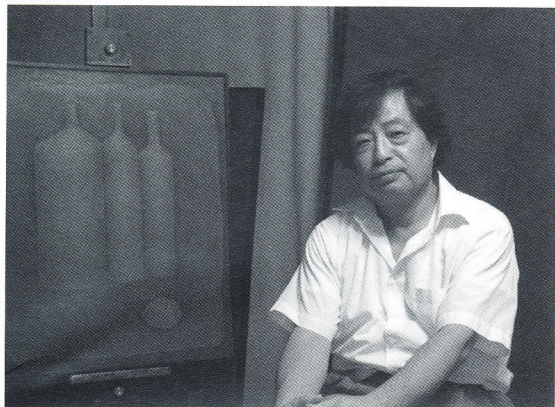
<http://www.dorder.jp>



絵は自分の存在証明。

足立 龍男さん

絵画科洋画コース2期卒



アトリエにて



メランコリア(砂上の国)

今日は洋画卒業生の足立龍男さんの金山にあるアトリエにお邪魔しております。

足立さんは美術学部絵画科洋画専攻(現・美術学科洋画コース)2期生です。卒業後は、名古屋市の中学校の美術教師となりました。キャリア36年のベテランです。

その一方で1983年から美術団体・自由美術協会に出品し始め、'85年'97年に佳作作家賞受賞、2008年には平和賞を受賞。その間、東京展に於いても優秀賞を受賞されています。

現在は自由美術協会の会員作家として活躍されています。

——名古屋芸大の創立期に学生時代を過ごされましたがその頃の思い出を何か話していただけますか。

1970年に東京から名古屋にきました。当時は大阪万博が開催されるなど、高度成長期のまっただ中で日本中が元気でした。入学当時の大学は芸大としての機能が不十分で色々問題があり、授業もままならないこともありました。いつ大学が無くなってもおかしくない状況でした。

校庭にはまだキジやイタチなんかが見れて、学生がバイクでそれを追いかけてたりなんかして…。楽しい時代でした。(笑)今みたいな立派な施設は全くありませんでしたが、自分自身は東京の喧噪から逃れられた開放感だけが嬉しくて、実は周りのことはどうでもよかったんです。

——現在、教員として中学生に美術を教えているわけですが…。

教員になってもう36年になります。名古屋市内の中学校を7校を渡り歩きました。多くの生徒と関わってきましたが、教え子の中には美術の方向に進んだ者も少なくありません。名古屋芸大に進学し後輩になった者もいます。

教員に成り立ての頃は中学校も荒れていて、こちらも若かったものですから随分いろいろなことがありました。筋書きのないドラマの中で、毎日、生徒と言うか、時代と闘っていたような気がします。社会の矛盾が弱い所に出るんですよ。

——その大変な時代でもずっと絵の制作を続けていたわけですか？

はい、何度ももう続かないなと思いましたが、やめたら自分が無くなりそうで…絵は自分の存在証明のようなものですから。始めのうちはいい仲間がいたものですから、グループ展や個展をしたり何とか頑張っていました。永く制作を続けて行くためには団体展に所属するしかないなと思いだしたころ、元学長の高木勲(故)さんに声をかけていただいて公募である自由美術に1983年から出品させていただくようになりました。

今は、中部での会の仕事もしながらの制作で大変ですが、伝統のある会ですので引き継いで

行かなければという気持ちでやらせていただいています。

——最後にこれからの抱負と後輩に向けてのアドバイスをお願いします。

これまで培ってきたものをベースに自分にしか見えない世界を表現して行きたいと思っています。今はコンピューター社会であり、物質的には恵まれて一見便利で豊かな社会に見えますが、東日本大震災のような悲劇に見舞われた時、人間の素の部分が見えてくる。脆くて弱い存在だということ、資源もなにも無いこの小さなこの国の嘘くさい豊かさが。

芸大に入って来る人間が何を求めて入って来るかを考えると意識するしないにかかわらず、抽象的ですが「心」の部分だと思いますよ。この国や時代の危うさを何かしら感じている人間が入ってくる。

国の一番の資源、財産はいうまでもなく人間で、その人間の「心」の部分に触れることの出来る最適の教育の場が芸大だと思います。ですからそういう場に入って来られた後輩の皆さんには是非今ある環境や時間を大切にしてください。最大限生かして、精一杯自分探しをしていただきたいと思います。人生は短いですよ…

——本日はお忙しい処、ありがとうございます。これからご活躍を楽しみにしております。

FURBO
DESIGN

インテリアデザイン 特注家具 オーダーキッチン

<http://www.furbo-design.com>

有限会社 フルボデザイン 名古屋市名東区社台 3-23-1 TEL 052-771-7388

継続していくこと

白井 和成さん

彫刻科4期卒

伝統工芸陶芸部会展は、日本工芸会により正会員として認定され、日本の各地で活躍されている陶芸作家の展覧会です。(4月に行われたこの第39回展は、東日本在住の陶芸作家の多くが大震災の壊滅的な被害を受けながらも出品された作品展となりました。)

——第39回 伝統工芸陶芸部会展(2011)において、「織部象嵌花器」が日本工芸会賞を受賞、おめでとうございます。

有難うございます。この件について、どうしてわかったんですか。

——白井さんの学生時代から大学で指導していらっしゃった、現在学部長である神戸峰男教授に教えて頂きました。それでは、作品名の「織部象嵌」とは、どのような手法で作られたものですか。

焼物の象嵌は、器体に別の土(色土)を埋め込み文様等をつくり、無釉もしくは透明釉をかけて焼成する事が普通だと思うが、私の場合は、織部釉(色釉)を使い焼成しております。

——作品制作において心がけていることなどありますか。

オリジナリティーという事かと思います。

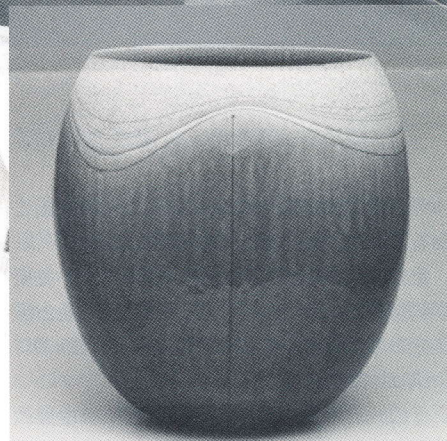
——非常に端的に、的確な言葉で答えて頂きました。今後、どのようなことに取り組んでいきたいですか。抱負などお聞かせ下さい。

出来上がった作品を見れば、一目で私(白井和成)の作品であるとわかってもらえたらと願います。工芸でも作品の密度というか、完成度とでもいうのか、少しでも向上させたい。八ヶ岳の土をもっと活用していきたいです。

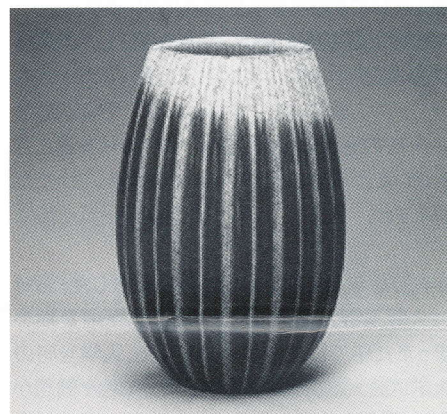
——最後に同窓生の皆さんに一言いただけますでしょうか。

年寄りが何も言う事はない。がむしゃらにやった時は、一時だったが…継続させる努力かな?

どうも有難うございました。山梨県北杜市長坂町の「雍和窯」において作陶し続ける白井和成さんでした。



織部象嵌花器 日本工芸会賞2011



織部象嵌花器 三越賞

会長	副会長	副会長	副会長	理事	理事	理事(会計)	理事(会計)	理事(書記)	理事(書記)	評議員(書記)	理事 事務局長	理事	理事	監査	監査(税理士)	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	副会長	副会長	副会長	会長	
4期	19期	20期	23期	5期	12期	5期	19期	20期	5期	23期	20期	21期	22期	22期		4期	20期	22期	27期	28期	28期	28期	33期	33期	35期	36期	37期	37期
デザイン	洋画	洋画	デザイン	洋画	日本画	彫刻	洋画	日本画	日本画	日本画	洋画	デザイン	日本画	彫刻		デザイン	洋画	洋画	洋画	日本画	日本画	彫刻	日本画	日本画	デザイン	日本画	日本画	日本画
青木高弘	平田隆宏	芳賀基純	小林聖知	杉浦尚史	荒木紀江	岩井義尚	石川重明	中村恵美子	白井久義	岡本昌子	浜辺由美	永井瀧登	鈴木淳子	鈴木琢磨	福海幸雄	平田俊也	川上裕里	小竹陽子	鎌田桂太郎	佐竹亜希子	水野加奈子	加藤雄一郎	長谷川基子	福本百恵	永田敦子	磯田衣里	中村朋恵	水野愛弓

同窓会役員紹介

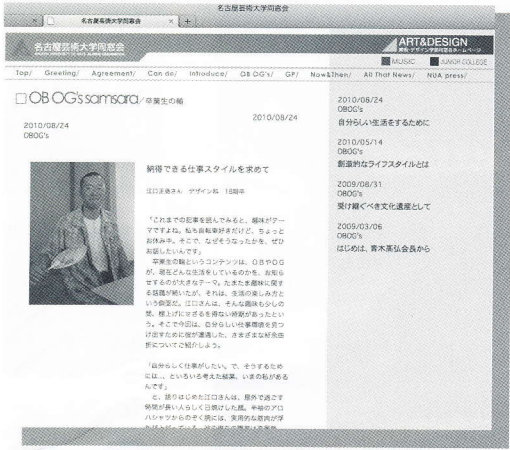
[2011年9月現在]

記事へのお問い合わせは…

〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65
名古屋芸術大学西キャンパス内
美術学部・デザイン学部同窓会事務局 宛
tel. 0568-24-0325 (大学代表)
fax. 0568-24-0326

Information

同窓会ホームページをご活用ください。
アクセスは <http://nua-w.com/>



上は企画コーナーの『卒業生の輪』。卒業生が友達をどんどん紹介していくコーナーです。今号のTOPでご紹介した梶浦さんよりのご提案『NUA/TOKYO Design Lab』についての意見もお待ちしています。各ページの一番下に「情報登録フォーム」という項目がありますので、そこからアクセスをお願いします。このフォームから、皆さんからの貴重なご意見、卒業生の最新情報募集、住所変更等の登録手続きも可能です。ぜひご利用下さい。
☞名古屋芸術大学のTOPページからもリンクされています。

facebookに 同窓会のページを 開設しました。



名古屋芸術大学 美術・デザイン学部同窓会としてfacebook上にページを開設し、試験的に運営しています。役員会議の報告、行事報告、OBOG展覧会情報の発信を行っています。「いいね!」ボタン押しいただけたら幸いです。よろしくお願いします!!

再度確認を！お願いします！

振込先の口座番号など、間違いが大変多くなっています。
書類をお送り頂く前に、もう一度番号などご確認ください。よろしくお願いいたします。

様式1	後援依頼	様式2	報告書
	〇年〇月〇日		〇年〇月〇日
	名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会		名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会
	会長 青木 高弘 殿		会長 青木 高弘 殿
	第〇期〇〇〇科卒業 〇〇〇〇〇 印		第〇期〇〇〇科卒業 〇〇〇〇〇 印
	下記の作品展について後援をお願いします。		
1) 名 称	〇〇〇〇展	1) 名 称	〇〇〇〇展
2) 場 所	〇〇〇〇ギャラリー (住所・電話番号)	2) 場 所	〇〇〇〇ギャラリー (住所・電話番号)
3) 会 期	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日迄	3) 会 期	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日迄
4) 代表者(出品者) 氏 名(第〇期〇〇〇科)	電話番号 郵便番号・住所	4) 代表者(出品者) 郵便番号・住所 ※氏 名 (第〇期〇〇〇科)・電話番号 注) ※印は出品者全員記入	
		5) 入場者数	〇〇名
		6) 写真	写真〇点添付致します。
		以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先/〇〇銀行・〇〇支店・〇〇座・No.〇〇 口座名義(フリガナ)	

同窓会が後援を行った展覧会報告

2010年4月から2011年3月まで、同窓会が後援を行った主な展覧会を下記に報告します。後援依頼は後援規約をよく確かめた上、ご応募下さい。ホームページでは全報告、後援規約を掲載しております。

野田将也展
エビスアートラボギャラリー
2010年7月29日(木)～2010年8月10日(火)
出品者:野田将也(28期絵画科)

石神則子展
GALLERY CN
2010年9月18日(土)～2010年9月26日(日)
出品者:石神則子(32期絵画科洋画)

3人展
アートスペース美園
2010年9月24日(金)～2010年10月5日(火)
出品者:寺沢明日未(32期絵画科)、川田英二(22期絵画科)、泉秀徳(11期絵画科)

秋田光彦 水彩画展/野路の風IV
ギャラリー芽菜
2010年11月6日(土)～2010年11月21日(日)
出品者:秋田光彦(5期絵画科)

～文字は絵の如し～筆文字と写真のコラボ「夏の畑、やさい語録」
名古屋市民ギャラリー栄
2011年2月8日(火)～2011年2月13日(日)
出品者:佐藤忠生(6期デザイン科)

三水会 第七回絵画、彫刻展
T.A.G.IZUTO
2011年1月14日(金)～2011年1月25日(火)
河村佳則(7期彫刻科)、植田努(25期彫刻科)、大路宗規(22期彫刻科)、長坂伊紗(30期造形科)、工藤志保(25期彫刻科)、大河内正敏(絵画科日本画)、澤口准子(30期造形科)、川合健介(32期彫刻科)、森矢真人(26期彫刻科)、肥田宜知(彫刻科)、山本友子(31期造形科)、田中宏典(13期彫刻科)、服部千治(3期)、賛助出品:神戸峰男

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1. 資格

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

2. 後援金

個展・グループ展(参加者全員が同窓生であること)とも1回に二万円とし、各参加者につき年(期間:4月1日より翌年の3月末日まで)1回とする。但し、名義後援は認める。

3. 手続き

イ) 会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ) 作品展終了後1ヶ月以内に、DM及び会場(作品)写真点数を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4. 条件

イ) 作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5. 再振込の手数料ご本人負担について

イ) 報告書の振込先に間違いがあった場合は、2万円から振込組戻し手数料(840円)と、再度振込時の手数料(三菱東京UFJ銀行宛315円・他行宛630円)を差し引いた金額を、後援金として入金させていただきます。

6. 問い合わせ・送付先

名古屋芸術大学美術・デザイン学部
同窓会事務局
愛知県北名古屋市徳重西沼65
TEL0568-24-0325

第24回 同窓会総会・懇親会 開催のお知らせ

第24回同窓会総会をこの秋開催いたします。

昨年度会場として好評だったことをうけて、本年度も「ホテルルブラ王山」にて開催いたします。

総会では昨年度の活動報告、これからの活動予定、予算の収支報告といった、会員の皆様にとって大事な内容を議事運営しております。懇親会だけではなく、総会からのご参加をお願い申し上げます。

総会後に行なわれます懇親会につきましては、今年も会費無料(ご家族の方含む)でお楽しみいただけます。懐かしい先生方、ご友人との再会の場として、皆様のお越しをお待ちしています。

場 所 **ホテル ルブラ王山**

住所 〒461-8525

愛知県名古屋千種区覚王山通8-18

電話 052-762-3151

ホームページ <http://www.rubura.org/>

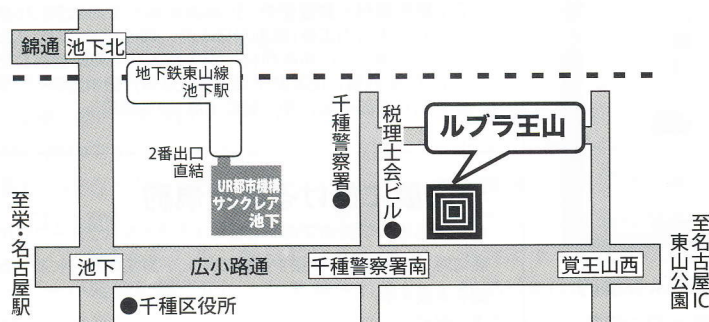
日 時 **平成23年10月23日(日)**

総 会 **14:00より 受付は30分前から**

総会終了後、懇親会を行います。会費無料。

※駐車場はございますが、すべて有料です。

懇親会のお料理にはアルコールが使用してある場合がございます。
お車でのご来場は、ご注意ください。



- 地下鉄東山線池下駅下車 2番出口(サンクレア池下地下1階)より徒歩3分
- 名古屋駅より地下鉄東山線で13分
- 市バス池下下車徒歩2分
- 東名高速道路利用の場合は名古屋インターより西に約20分
- 東名阪経由名古屋高速吹上東出口より車で7分

今年は「The キャンプ」が 会場で野営サウンドを奏でます!



メンバー⇒オカエモンこと岡田和八(Drums.37期卒)、ヨウヘイコバヤシこと小林洋平(Bass.34期卒)、ジャッキーこと成田宏紀(Guitar.36期卒)、Itoこと伊藤洋平(Vocal.36期卒)、りゅうしこと山口立史(Guitar.)のデザイン科卒の5人組。(リュウシさんは、名芸卒ではありませんが、以前デザイン科の教員でいらした山口良臣先生の息子さんです)

※このコーナーの写真すべて高橋隆太(ドラゴン)37期卒

～2007年初夏、名古屋芸術大学軽音楽部の5人によって結成。

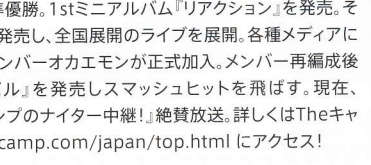
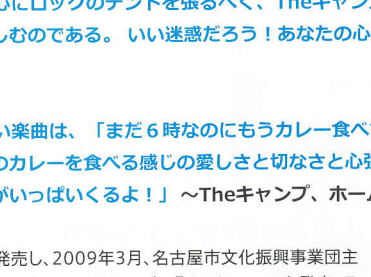
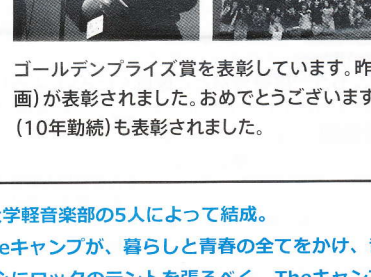
キャンプ経験は皆無に近いTheキャンプが、暮らしと青春の全てをかけ、音楽という名のテント張りに日々勤む。今日も人々の心にロックのテントを張るべく、Theキャンプはその青春と情熱をかけて日々ライブという野営に勤しむのである。いい迷惑だろう! あなたの心に住み着いてTheキャンプはこう語りかけるのだ。

「ごはん、おかわり!」

「野営サウンド」と銘打ちたい楽曲は、「まだ6時なのにもうカレー食べちゃう!?はえー!」のよう、森が夕日に包まれる中のカレーを食べる感じの愛しさと切なさ心強さを感じさせる。

「アレー! ランタンに火がいつぱいくるよ!」～Theキャンプ、ホームページプロフィールより

2007年10月に1stシングル『食卓』発売し、2009年3月、名古屋市文化振興事業団主催『第4回尾張名古屋バンド決戦!』準優勝。1stミニアルバム『リアクション』を発売。その後も、着実にシングル・アルバムを発売し、全国展開のライブを展開。各種メディアにも取り上げられる。2010年現在のメンバーオカエモンが正式加入。メンバー再編成後の2ndミニアルバム『フェスティバル』を発売しスマッシュヒットを飛ばす。現在、MID-FM USTREAM ch.『Theキャンプのナイター中継!』絶賛放送。詳しくはTheキャンプホームページ <http://web-thecamp.com/japan/top.html> にアクセス!



ゴールドプライズ賞を表彰しています。昨年度は吉田千恵さん(日本画)が表彰されました。おめでとうございます。また同窓会役員の功労者(10年勤続)も表彰されました。